

上咽頭結核の1例（抄録）

宮 嶋 啓 輔, 余 田 敬 子, 北 嶋 整,
栗 原 秀 樹, 稲 中 優 子, 新 井 寧 子
東京女子医科大学附属第二病院耳鼻咽喉科

近年、結核は再興感染症として注目されている。今回我々は比較的稀であるといわれている上咽頭結核を経験したので報告する。

症例は29歳女性の看護師。本年5月中旬より咽頭痛が出現。上咽頭に炎症所見が認められたため抗生剤を投与された。症状は軽快せず、咽頭痛は増悪した。再診時、内視鏡下に左耳管隆起周囲に白色局面が認められた。同部の生検結果からは巨細胞を伴う壊死性病変が認められた。このため、同部のぬぐい液の抗酸菌検査を行ったところガフキー1号が検出された。また、胸部所見は異常なく喀痰からは結核菌の検出は無かった。上咽頭結核と診断し専門病院に紹介した。患者は現在も隔離病棟で療養中である。

近年はHIV患者の増加に伴い結核を含む特殊感染症が増加している。今回の症例では患者が看護師であり医療従事者の感染は感染経路の検索と拡大防止のため極めて問題となる。